

年 組 ( ) 番) 名前

記入日

月

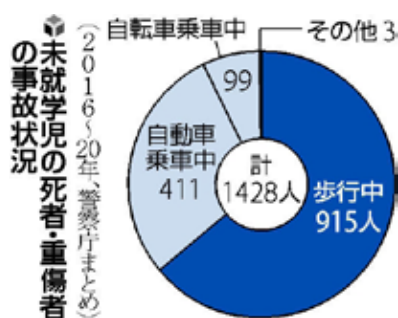
日

# 幼児事故 歩行中 64%

昨年までの5年間に交通事故で死亡または重傷を負った未就学児（幼児）が1428人に上り、うち915人（64%）が歩行中だったことが警察庁のまとめでわかった。道路への飛び出しや、保護者がそばにいない「一人歩き」が目立った。同庁は「幼児は予想外の行動を取ることが多く、ドライバーは慎重な運転を心がけてほしい」としている。

## 死亡・重傷 5年で1428人

警察庁によると、915人の歩行中の事故を時間帯別にみると、午後4～5時台が最多の264人。続いて同2～3時台178人、



午前10～11時台122人、正午～午後1時台112人で、日中が大半だった。自宅近くで事故に遭う子どもが多く、386人（42%）は事故現場が自宅から100m以内だった。915人のうち851人について事故原因などを分析したところ、「飛び出し」が最多の280人（32%）で、「一人歩き」が185人（21%）、横断歩道ではない所を渡る「横断違反」が86人（10%）だった。一方、子ども側に違反はなかったケースも234人（27%）だった。

(2021年3月29日 読売新聞夕刊より)

- 1 調査結果から、何時～何時台までの間が、歩行中の幼児が最も事故に遭いやすいと言えますか。午前・午後のどちらかに○を付け、時刻を書きましょう。

(午前・午後)

時～

時台までの間

- 2 歩行中の事故のうち、子ども側に多い原因を多い順に並べました。( )に当てはまる言葉を記事の中からぬき出しましょう。

1: ( ) 2: ( ) 3: 横断違反

- 3 この記事を新聞に載せると、どのようなことを読む人に伝えられますか。適切なものをすべて選び、番号で答えましょう。

- ① 多くの事故の原因は子どもの側にはないので、子どもの事故は防ぎようがないこと。
- ② 事故は主に歩行中に起きるので、子どもは必ず自動車や自転車で移動すべきだということ。
- ③ 子どもの事故を防ぐためには、保護者も気をつける責任があるということ。
- ④ 自宅近くでの事故も多く、慣れている場所だからといって安心しないようにすること。